



2023年新春号  
Vol.101

あいち診療所 野並  
名古屋市天白区福池2-330-2  
TEL 052-895-6637  
令和5年1月4日発行



## 新春のつぶやき

年頭には「今年はこれをやろう。」  
と思う。

私は何回そう思ってきただろう

か。

なんとなく実現できたこともある  
が、実現できなかったことの方が多  
い。

「こんなことが出来たらいいな」  
と思うことを「これをやろう」と  
いってしまう。

「これをやろう」と決心したら、  
その日からそれに向かって歩き出さ  
ないと実現しない。

この歳になって、やりたいことが  
山積している。とても幸せなことだ  
と思う。

ただ、「やりたい」ことの中に「し

なければならぬこと」と「やりた  
いこと」とが混在している。

「しなければならぬこと」はしな  
ければならないから「やりたいこと」  
は後回しにしてきたように思う。

この歳になって、「残りの人生」を  
考えるようになった。

大切な人が一人また一人と逝って  
しまうと嫌でも考えてしまう。

「やりたいこと」を後回しにしてい  
たら、きつとやりたいことはできな  
いで終わってしまうだろう。

そうだ、今年は「やりたいこと」  
も並行してやってみよう。

はて、やりたいことって何だろう。  
「やりたいことが山積している」と  
いったが、よく考えると、仕事のこ  
とばかりだ。

## 仕事人間の定年後

仕事人間が定年になって、仕事が  
ら離れた時、仕事以外に人間関係が  
なく、住んでる町に知り合いもなく、  
やりたいことが見つからないと、家

に引きこもってしまうことがよくあ  
るようだ。高齢男性の独居者の20  
%以上が2週間以上人と会話をしな  
いという。

孤独は、喫煙より死亡リスクを高  
めると言うのに。

## 私はどうか？

私が理事長である限りやりたいこ  
とを口にするのとスタッフの仕事を増  
やすことになる。

やりたいことをしているときには  
時間は気にならないし、苦痛も伴わ  
ない。

しかし人のやりたいことをやらさ  
れていると、時間が気になるし苦痛  
を伴う。

スタッフにとってやりたいことで  
なければ、それはしなければいけな  
い仕事である。

それでは楽しくない。

今年は、自分のやりたいことは我  
慢して、スタッフがやりたいことが  
出来るように努めよう。そして仕事

と直接結びつかない人間関係を広げ  
よう。将来孤独にならないで済むよ  
うに。

理事長 畑 恒士



## あいち診療所からのお願い

感染対策として受診の際には左記の  
点にご協力お願いいたします。

● 診療所に入る際には、マスク着用、  
手指衛生、体温測定にご協力お願  
いします。

● 発熱や感冒症状など感染症が疑わ  
れるときは、受診前の事前電話を  
お願いします。

## あいち診療所野並

(052) 895-6637

## あいち診療所滝の水

(052) 878-1212



あいち診療所 野並  
院長 野村 秀樹

あけましておめでとうござい  
す。

新型コロナウイルス感染症  
(COVID-19)の流行も4年目に入  
うとしています。昨年は皆様にとっ  
てどのような年だったでしょう  
か？また、今年はどのような年にし  
たいと思われませんか？

診療所野並は昨年もCOVID-19に  
翻弄された一年でした。後になるに  
したがって大きくなる流行の波の中  
で、外来診療のオペレーションを工  
夫しながら対応してきました。現在、  
あいち診療所野並では、診療所内  
の密をできるだけ減らし、感染者と  
非感染者の接触を避けるために、感  
染症状のある方と一部の外来で時間  
予約制診療を行っております。予約  
なしで受診された場合は、順番が前  
後したり待ち時間が若干長くなる場  
合がありますが、ご理解いただけ

ばと思います。また、当院では新型  
コロナワクチン接種やCOVID-19の  
抗原検査、PCR検査はもちろん、  
陽性者の診察や必要ならば抗ウイル  
ス薬の処方にも対応しております。

一方、超過死亡が増加しているこ  
とが話題になりました。新型コロナ  
ウイルスによる直接の死亡というよ  
りも、併存症の悪化や体力の低下な  
どによる死亡が増えている印象で  
す。これには受診控えや過度の自粛  
生活の影響等があるのだと思いま  
す。当院では、高血圧等の生活習慣  
病の方を中心に、職員が治療状況や  
生活状況をお伺いし療養上のアドバ  
イスをさせていただくようにしてお  
ります。感染を過度に恐れるのでは  
なく、運悪く感染しても乗り越えら  
れる体力維持と慢性疾患管理を目指  
しております。

新型コロナとの共存を目指して社  
会活動の再開が始まるなど、今年も  
変化の多い年となりそうです。当診  
療所も地域の診療所として望まれる  
サービスを提供できるように変化に  
対応してゆきたいと思えます。

本年もどうかよろしく願いた  
します。



あいち診療所 滝の水  
院長 岡崎 嘉樹

2023年、新年のごあいさつ

「おかざ↑き↑さん、ききやーな  
ぶつてかんよ」。

4年前に、下宿のおばさんから、  
共同炊事場の説明を受けているとき  
に受けた、初めての名古屋弁の洗礼  
だった。

ガス給湯器の前なので「ききやー  
はおそらく「機械」のことだろう。  
話の流れから「なぶる」は「触る」  
と思われる。最後の「かん」は「い  
かん」の「い」が抜けてしまってい  
るのだろう。数秒の間に思いをめぐ  
らした。

まあ、わからなくても言い直して  
もらえば、何とかなりそうだなと  
思った。その後も、

「どえりゃーえりゃー」とか、  
「まーちゃっと、いざらかしてくれ  
ん」とか、

「ちょーらかさんといて」とか、  
いくつかのハードルを乗り越えてき  
た。

しかし、在宅医療を始めて数ヶ月  
で、患者さん宅を訪問した時に、い  
きなり、

「先生、もーらーきやーてまって、  
わやだわ」と、名古屋17年目にし  
て初めての言葉を聞いた。お年寄り  
と話す時、まだ知らない名古屋弁が  
あったのかと衝撃を受けた。

98歳で亡くなった東京の祖母か  
ら、「私はあなたに診てもらえないけ  
ど、その分、名古屋のお爺さんや  
お婆さんに親切にしてあげてね」と  
言われ、その言葉を胸に在宅医療を  
続けてきた。

気が付くと、月日は流れ、患者さ  
んは両親と同じ年代になり、介護者  
の方は自分と同じ年代になってい  
る。その分、介護者の気持ちがよく  
わかるようになってきた。

名古屋に来て、在宅医療に巡り  
合って、本当に良かった。いつも思  
うが、天職に巡り合ったと思う。

「皆さん、ありがとーね。これからも、  
仲良くしてちょーでやーね」。